

## 日本メドトロニック パーキンソン病の治療オプション 脳深部刺激療法(DBS)紹介コンテンツを e ディテリング®で配信

日本メドトロニック株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:島田隆)は、パーキンソン病患者さんの日常生活動作(Activities of Daily Living: ADL)、生活の質(Quality of Life: QOL)を改善する治療法、脳深部刺激療法(Deep Brain Stimulation: DBS)に関するコンテンツ配信を、医薬情報提供サービス『e ディテリング®』にて開始いたしました。配信期間は2009年7月9日より1ヶ月間で、医療機器に関するコンテンツ配信としては初の試みとなります。

DBS 紹介コンテンツは、株式会社ケアネットの医薬情報提供システム、『e ディテリング®』を活用し、同社が運営する会員制医療情報サイト『ケアネット・ドットコム』に登録する約3,200人の神経内科医に対し配信されます。今回の配信は、DBSの作用機序、有効性、安全性および適応症例に関する神経内科医への解説を通じ、薬物療法に加わる新たな治療の選択肢を増やし、より多くの患者さんのADL、QOLの改善に貢献することを狙いととしています。

本コンテンツ総監修の順天堂大学医学部 脳神経内科学教授服部信孝先生は、「従来 DBS は侵襲性があるというだけで、最終的な治療と考えられてきました。しかしながらアメリカ神経学会(AAN)ガイドラインでは、若くして発症した患者さん、罹病期間の短い患者さんに対してより効果的であることがわかってまいりました。より早い時期、つまり運動症状のウェアリングオフが出現した時点で、早期に DBS を考慮する時代が来たといえます」と述べています。

### 【脳深部刺激療法(DBS)】

脳深部刺激療法(DBS)とは脳深部に柔らかく細い電極を、前胸部に心臓ペースメーカーに似たパルス発生装置を植え込み、この二つを接続して持続的に刺激を与える治療法です。この電気刺激により脳内の異常な神経細胞活動を阻害し、パーキンソン病の主症状のひとつである振戦や、本態性振戦等の振戦を軽減します。日本メドトロニックがDBSに用いられる医療機器の承認を取得し、2000年に保険収載されて以来、既に4,000例以上の手術で使われています。世界各国では60,000の手術例があります。

### 【パーキンソン病】

パーキンソン病は、振戦<sup>1</sup>、強剛<sup>2</sup>、無動<sup>3</sup>、姿勢反射障害<sup>4</sup>を主症状とする進行性の神経変性疾患です。これらの主症状は、中脳にある黒質という細胞が変性または死滅する結果、脳内の化学物質のドパミンが減少して引き起こされます。現在、日本のパーキンソン病患者は14万5千人と推定されています<sup>5</sup>。50歳から65歳の年齢層に多く発症し、高齢になるほど発病率は増加します。高齢化に伴い患者数は増加するとされています。

進行性であり、現時点では完治しない疾患であるため、病気と上手に付き合うことが必要とされています。通常パーキンソン病の治療は、ドパミンを補充する薬剤の服用により、ある程度症状を抑えられるとされています。しかし、長期間薬剤を服用すると、不随意運動(自分の意図に反して手足が動く:ジスキネジア)や、薬剤が効いている時間(オン時)と効かない時間(オフ時)を頻繁に繰り返す(ウェアリング-オフ現象)、幻覚などの副作用が出る場合があります。DBSを併用することで、ウェアリング-オフ現象を減らし、患者さんご自身の意志で活動出来る時間を増やし、その結果 ADL、QOL の向上に寄与することが期待されます。

※神経変性疾患に関する研究調査班『パーキンソン病と関連疾患の療養の手引き』(平成 17 年)より

<sup>1</sup> 振戦(しんせん):手、足、あごなどがふるえる。

<sup>2</sup> 強剛(きょうこう):筋肉が硬く硬直した状態。

<sup>3</sup> 無動(むどう):動作の速さが遅くなり、運動の量が減ること。

<sup>4</sup> 姿勢反射障害(しせいはんしゃしょうがい):立位と歩行において、バランスを崩しやすく転びやすくなること。

<sup>5</sup> 厚生労働省 平成 17 年患者調査

## 【『eディテリング®』について】

『eディテリング®』は、株式会社ケアネット(2007年東証マザーズ上場)が提供する、インターネットを介した医療情報提供サービスです。同社が運営するサイトの会員(医師・医療従事者)に対しストーリー形式の動画と音声配信し、その視聴反応を収集することで、医薬関連企業の営業活動の効率化に役立つシステムです。(『eディテリング®』はケアネットの登録商標です)

ウェブサイト <http://www.carenet.co.jp>

## 日本メトロニック (Medtronic Japan Co., Ltd.) について

日本メトロニックは 1975 年の設立以来 30 年以上にわたり、生体工学技術を応用し、慢性疾患をお持ちの方々の痛みをやわらげ、健康を回復し、生命を延ばす医療機器を通して人類の福祉に貢献することを目指しています。メトロニックが提供する先端医療技術は、心臓疾患をはじめ、パーキンソン病、糖尿病、脊椎疾患、脳疾患、慢性的な痛みなど慢性疾患を広くカバーしています。

ウェブサイト <http://www.medtronic.co.jp/>

当社は、本プレスリリースに掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、医学的情報の提供を意図するものではなく、また、その正確であることを保証するものではありません。報道関係各位に限らず、本プレスリリースのすべての閲覧者が、本プレスリリースの情報をを用いて行う一切の行為について、責任を負うものではありません。